
がれんど！

ほいみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
がれんど！

【Nコード】
N2421BA

【作者名】
ほいみ

【あらすじ】
特になにも考えず学校生活を送っていた
秋良は級友に誘われカラオケに行くことになった。

「一生懸命はダサい」

これがゆとり教育を9年間受けてきた俺、

竹下秋良が出した結論だ。

こんな結論を出してしまったから

俺は特に本気でやりたいと思えることもなく
人生を無駄にしたらだら過ごしてきた。

俺を変えてくれたあいつに出会うまではな。

高校生になったからといって

急にになにかができるようになる訳ではない。

まして自分から何かを始めるなんて

あり得ない。

高校に入ってから俺は毎日そんなことを

考えている。

でも、実際そうだろうか？

入る前はあんなに憧れていた「高校生」も
入ってしまったら中学校とんなら変わらない。

毎日毎日眠気に耐えながらどうでもいい

授業を聞き、気の合う友達と喋り、

同じ方向の友達と家に帰る。

ほら、なんも変わんない。

強いて言えば寄り道をしたりするくらいだろう。

と、俺は空腹がピークに達する

4時間目の授業中にそんなことを考えていた。

入学して1ヶ月、だんだんクラスが

溶け込めてきたある日の4時間目である。

そんなことを考えていたらチャイムがなった。

昼飯を取りだそうと鞆を漁っていると

俺の前に2人の男がやってきた。

「秋良、飯食おうぜ！」

と、元気に言ってきたのは、高校に入ってから初めてできた友人の赤沢悠斗だ。

「しかしまあやっぱり高校の授業って難しいな。疲れたわ。」

と、真面目なことを言っているこいつは席が近く、最近よくしゃべる東雲翔だ。

悠斗はとても爽やかな男で、

翔は信じられないほどのイケメンなのだ。

この2人に俺みたいななんの取り柄もない

普通の男子高校生が混ざってて大丈夫なんだろうか……

「まあ飯食おうぜ、腹へったわ」
と、俺が言ってみんな食べ始めた。
やっぱりこの時間が一番楽しいな。
気の合う友達と飯を食べる。うん、それだけで
十分だ。

「やっぱり高校入ると帰りに寄り道できるからいいよね」
ほうほう……やはり悠斗もそういうことを
考えていたんだな。

「そうだな。僕も寄り道は好きだな。」
翔もそんなことを言っている。

と、そこで悠斗が「よし！」と言って
宣言した。

「明日学校帰りにカラオケ行こうぜ！
俺女の子も誘ってやるからさ！」
カラオケ……興味はあるけど行ったこと
ないんだよね……どうしょ

「楽しそうだな。僕も行くよ。」
おお、翔も行くのか……

「ん、じゃあ俺も行くわ」
まあこういう付き合いは大事だよな。

「よし、じゃあ色々決めたらメールするな！」
なかなか楽しみな……
友達と寄り道は初めてだし。

そんな感じに雑談をしていたら
昼休みの終わりを告げるチャイムが鳴った。

うん、明日が楽しみだ。

次の日の放課後さっそく

悠斗、翔とカラオケボックスへと向かった。

「女の子ちゃんと3人誘ったぜ

カラオケで合流ってことになってるから行くこうぜ」

なんか悠斗ノリノリだな……

まあ俺も昨日はちよつと興奮して寝れなかったからな。人のこと言えないか。

その後雑談しながら15分くらい歩いて学校の近くのカラオケボックスに着いた。

「えっと……あ、いた！

おい！レナ」

悠斗が手を振った方向を見ると

同じ学校と思われる女子が3人いた。

「おう！悠斗おせーぞ！」

と、元気に声をかけてきたのは

不良っぽい見た目の子だ。

レナ……と、言うのだろうか……

髪の色が赤みがかっていてそれを

ポニーテールにしている。正直怖い……

「私たちが早く着きすぎちゃっただけでしょ？

文句言わないの。」

そう大人っぽく言った子は
黒髪ロングのストレートヘアを
腰辺りまで伸ばしている。
あと、すごくスタイルがいい……

そして三人目

「カラオケ久しぶりだから楽しみだな」
と、言った子……

俺は天使を見た。

長めの栗色の髪、透き通るように白い肌、
整った顔立ちに綺麗な声。

人間とは思えないほどの可愛さだった。

俺はこの天使のような女の子に
一目惚れをした。

だが、この子が俺の後の人生を
大きく変えていくことになるなんて
予想もしなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2421ba/>

がれんど！

2012年1月9日01時49分発行